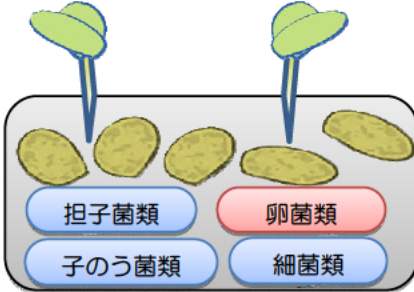
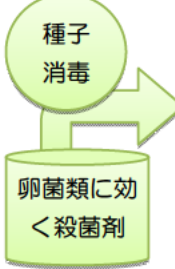
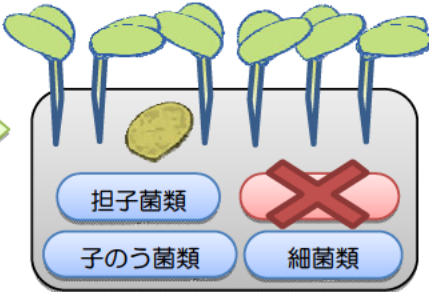
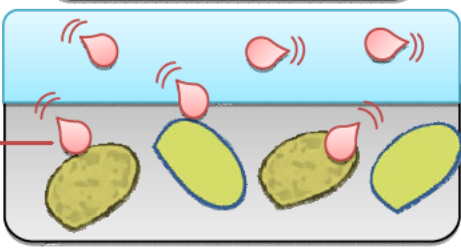


情報名	排水対策と種子消毒で大豆の苗立ち向上		
利用対象	大豆栽培を行っている農家		
開発機関	中央農業総合研究センター 大豆生産安定研究チーム	掲載承認	○
詳細情報入手先	http://narc.naro.affrc.go.jp/chousei/shiryou/kankou/seika/kanto22/11/22_11_17.html		
1. 想定導入先の背景	<p>県内の大豆作付けは、水田転換畑で作付けされることがほとんどで、播種後の降雨により、出芽苗立ちが不良となることが多く、大豆収量の安定化を図る上で大きな課題となっています。</p>		
2. 慣行技術の課題	<p>これまで大豆の出芽不良は、降雨等による湿害が原因とされ、圃場での排水対策や小明渠浅耕栽培や畝立て播種による湿害回避を中心とした技術開発が行われてきましたが、天候によっては、苗立ち不良となる場合があります。</p>		
3. 開発成果の内容	<p>◎出芽不良には土壤微生物が関与している！</p> <p>殺菌した土に大豆を播き、2日間湛水した後に水を抜き、8日間栽培しました。殺菌した土に播いた大豆はほとんどの種子が出芽しましたが、殺菌しなかった土に播いた種子は腐って出芽率が低下しました。</p> <p>◎卵菌類が大豆の出芽を悪くする！</p> <p>卵菌類に効く殺菌剤で種子消毒すると、大豆の苗立ち率が向上します！</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>担子菌類 卵菌類 子のう菌類 細菌類</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>種子消毒 卵菌類に効く殺菌剤</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>担子菌類 子のう菌類 細菌類</p> </div> </div> <p>◎湛水が長くなると苗立ち率が低下する！</p> <p>降雨などで湛水状態になってしまうと卵菌類の感染が起きやすいと考えられます。</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>卵菌類は昆布やわかめなどの褐藻類に近縁の種類で、遊走子という水中を泳ぎまわる器官を形成し、植物に感染します。</p> </div>  <p>◎殺菌剤と殺虫剤を含み忌避効果もある種子消毒剤</p> <p>平成24年から市販が予定されている、チアトキサム・フルジオキシニル・メタラキシルM水和剤(商品名:クルーザーMAXX)は、殺虫成分1つと殺菌成分2つを含み、忌避効果もあります。</p> <p>だいたいのアブラムシ類・タネバエ・ネキリムシ類・フタスジヒメハムシ・茎疫病・リゾクトニア根腐病・苗立ち枯病(ピシウム菌)・紫斑病に対し、乾燥種子1kg当たり原液8mlを、播種前に1回塗沫処理します。</p>		
4. 技術の県内農家への適合性・経済効果	<p>大豆種子への塗沫処理は、従来の忌避剤と殺虫剤の2重塗沫を行う場合に比べると、1剤処理なので省力的であり、コストもほぼ同等で、大豆苗立ちの安定により増収が期待できます。</p>		
5. 技術利用上の留意点	<p>◎排水対策と殺菌剤の併用で苗立ち向上！</p> <p>卵菌類に効果のある殺菌剤を種子にまぶしたり、排水対策をしっかりと行い、畝立て播種などによって種子の周囲に水が溜まりにくい状態にしたりすることによって、水田転換畑に大豆を播いても卵菌類による出芽不良を回避することができ、苗立ちが向上することが期待できます。</p> <p>◎登録薬剤を用いた県内での確認試験は現在実施中ですが、東北、富山などで実施した試験では、苗立ち安定効果が認められています。</p> <p>◎その他の薬剤についても、大豆への登録が拡大されることが想定されますので、農薬の選定時には、最新情報をご確認ください。</p>		
情報に関する問い合わせ先	三重県農業研究所 伊賀農業研究室 出岡裕哉 TEL:0595-37-0211 FAX:0595-37-0251		

